

平成21年度卒業式を挙行 (2010.3.25)



桃太郎アリーナにて平成21年度岡山大学卒業式および大学院学位記授与式が行われ、3,444名の卒業生・修了生が学舎を後にしました。

今回から、マッチングプログラムコースの卒業生13名、教職大学院の修了生20名が参加しました。

新任部局長等紹介

【任期】平成22年4月1日～平成24年3月31日	永田 諒一 (新任)
文学部 文学部部長	加賀 勝 (新任)
教育学部 教育学部部長・教育学研究科長	佐野 寛 (再任)
法学部 法学部部長	清水 耕一 (再任)
経済学部 経済学部部長	松尾 龍二 (再任)
歯学部 歯学部部長	谷口 秀夫 (新任)
工学部 工学部部長	村田 稔 (再任)
資源植物科学研究科 資源植物科学研究科長	
【任期】平成22年4月1日～平成25年3月31日	
教育学部附属小学校長	喜多 雅一 (新任)
教育学部附属特別支援学校長	上田 久利 (新任)

平成22年度入学式を挙行 (2010.4.8)



桃太郎アリーナにて平成22年度岡山大学入学式および大学院入学式が行われ、3,560名が新たなスタートを切りました。桜が満開に咲き誇る中、雲一つない晴天に恵まれ、新入生を迎えるのにふさわしい素晴らしい入学式となりました。

西堀教授・西原准教授が 岡山県文化賞・文化奨励賞を受賞



本学医歯薬学総合研究科・西堀正洋教授が平成21年度岡山県文化賞(学術部門・医学分野)を、自然科学研究科の西原康師准教授が平成21年度岡山県文化奨励賞(学術部門・化学分野)を受賞しました。西堀教授は平成21年度全国発明表彰において21世紀発明奨励賞を受賞するなど、医学分野における研究功績、西原准教授は有機化学分野における研究活動とその将来性が評価され、今回の受賞につながりました。2月23日には、岡山市内の会場で表彰式が行われ、西堀教授の代理で出席された西堀教授夫人と西原准教授は、石井岡山県知事より表彰状を手渡され、その功績を称えられるとともに、「ますますの活躍を期待します」と激励を受けました。

岡山市と寄付講座の 設置に関する協定を締結 (2010.2.17)



岡山市と寄付講座「地域医療学講座」の設置に関する協定を締結いたしました。この寄付講座は、岡山地域における地域医療ネットワークや、ER型救急システムの構築に関する研究、救急医、総合医など地域医療を担う医師等の養成、研修プログラム等の開発を行うものです。平成22年4月から4年間、岡山市民病院を拠点に、教員3名を配置して開講します。

日本語検定で「最優秀団体賞」を受賞



昨年11月に実施された平成21年度第2回(通算第6回)「日本語検定」において、本学が「最優秀団体賞」を受賞しました。今回の受賞は、教養教育科目「科学技術論文の作成技術」の受講生23名が、日本語検定3級(大学生対象)に合格したことを評価されたものです。工学部は、平成6年から卒業論文、さらに学術論文の作成法までを徹底的に訓練する、専門基礎科目「技術文章学」を開講しています。この講義は、工学教育賞・日本工学教育協会賞(著作賞)に輝き、文部科学省特色ある教育プログラム(特色GP)に採択されるなど、高い評価を受けています。教養教育科目「科学技術論文の作成技術」は、この講義の教育内容を全学に広めるため、平成21年度より全学部生を対象に開講されています。3月29日には、両講義の担当教員である塚本真也・自然科学研究科教授が、千葉学長に受賞を報告し、表彰状と盾を手渡しました。

60th ANNIVERSARY



創立60周年記念事業

小柴昌俊氏、海部宣男氏による講演会を開催

(2010.3.20)

創立五十周年記念館において、小柴昌俊氏(2002年ノーベル物理学賞受賞、東京大学特別栄誉教授)と海部宣男氏(1987年仁科記念賞受賞、国立天文台名誉教授)による市民科学講演会「ニュートリノや光電波で見る宇宙」が行われました。この講演会は、日本物理学会が主催し、本学が創立60周年記念事業の一環として共催したもので、中高生・大学生・一般の方など約500名が参加しました。

小柴先生は講演「宇宙、人間、素粒子」で、素粒子の検出方法を飛行機雲のでき方にたとえて分かりやすく説明したり、ノーベル賞受賞に至った1987年の超新星爆発の際のニュートリノ検出の話を紹介。将来、宇宙に満ちている謎の素粒子ニュートリノを見つけると宇宙の始まり(ビッグバン)の約3秒後が見えるかもしれない、といった壮大な話を語られました。

海部先生は講演「見えてくるか 第二の地球」で、天文観測技術の急速な発達により、木星のような大き



▲講演後、小柴先生、海部先生と高校生との記念撮影。中央が講演者の小柴先生と海部先生

な惑星が次々と見つかり、現在稼働を始めた電波干渉計(ALMA)や将来計画中の30m望遠鏡などが、木星よりも小さい「第二の地球」をこの銀河内に見つけ、さらにそこで生命の存在を近い将来発見するかも知れない、という夢のある話を語られました。

ニュートリノ天文学を開拓された小柴先生、電波天文学を開拓された海部先生、両第一人者による講演は、天文学ファンならずとも聴衆を大いに魅了し、質疑応答では、中高生、大学生や一般の方から次々と質問があり、会場は大いに盛り上がりました。

「学びの門」

キャンパス探訪
COLUMN
01



岡山県総合クラウドから時計台に延びる「南北道路」を進むと、中ほどの両脇に高さ2メートルほどの門柱が建つ。自転車や車が頻りに行き交うが特に気にする人もない。大きいが随分控えめなこの門柱が岡山大学の正門だ。東の柱には「岡山大学」の銘と1956(昭和31)年の建立を記した碑文。上に載るオブジェは、清水國夫・本学名誉教授(元教育学部教授)が制作、1993年の環境整備工事の際に設置された。

近くにいた学生に尋ねると「正門とは知らなかった。でも、ここから岡大だとは思っていた」。確かに、大学敷地内にある南北道路を開放しているためか、正門は決して閉まらない。しかし、商店や飲食店が並ぶ南側の活況と、北側のキャンパスに漂うアカデミックな空気をくつきりと隔っている。

これまで何人の学生が、大学生活や未来への期待を胸にこの場所を通ったのだろう。ひっそりと建つ正門が、貫禄ある「学びの門」に見えてきた。

OPEN

新施設オープン

資源植物科学研究所開所式を挙

(2010.4.1)



4月から資源生物科学研究所(倉敷市)が資源植物科学研究所と改称され、文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点となることに伴い、資源植物科学研究所開所式を行いました。式には千葉高三・学長、村田稔・同研究所所長をはじめとする教職員約90名、および来賓として伊東香織・倉敷市長、大原謙一郎・大原美術館理事長が列席しました。

同研究所は、国立大学附置研究所の中で唯一、資源植物にかかわる研究所で、大麦などの豊富な遺伝資源を保有するとともに、環境ストレスに対する植物の応答反応や耐性植物の育成に關して、世界的な研究成果をあげています。

今回、共同利用・共同研究拠頭に認定されたことで、国内外研究者との連携による資源植物の環境適応性の解明とその応用に関する研究が行われることとなります。



情報統括センターが発足

(2010.4.1)

学内の情報資産を集約・一元管理する「情報統括センター」が発足しました。学内各部署がそれぞれ管理している多様な情報を集中管理できる体制を整備し、学内状況を迅速に把握、教育、研究、経営戦略立案に役立てるの狙いです。

同センターは、大型計算機や教育研究用システムなどの管理などを行っている総合情報基盤センターと事務系システムの管理などを行っていた情報企画課を統合し、教員・職員が一体となって事業を推進する教職協働組織として開設。今後、学内各部署で所有しているさまざまな情報を収集したり、学外情報も広く集めるなど、大学情報の一元化を図る予定で、同じく4月1日に設置された学長戦略室と協力し、本学の戦略的経営の一翼を担っていくこととなります。